



「梅雨入りした」と耳にしてから、一度も雨が降っていません。子どもたちの通園を思うと、雨が降らない方がいいなあと思ってしまいますが、やはり農作物への影響を考えると適度に雨は降ってほしいですね。

さて、17日の土曜日には、たくさんの方がプール掃除に来てくださいました。お父さんの姿もあり、大変心強かったです。年長児のお部屋には、ブラシでタイルを磨く音がよく聞こえていて、子どもたちは20日からプールに入れることをとても楽しみにしたそうです。「綺麗に磨いてくださって、ありがとうございました。」子どもたちとプール遊びを楽しみたいと思います。

安全教育

「つうえんだより」でもお知らせしていますが、関大幼稚園では、地震や火災・不審者侵入時にどのように行動すればよいか、様々な場面を想定し避難訓練を全園児と教職員で行なっています。子どもたちを守る為に、私たち大人の為の訓練と言ってもいいかもしれません。子どもたちには、いずれの場面も担任（近くにいる大人）を見ることと指示をよく聞くことを求め、また、防災頭巾をスムーズに着用できるように訓練を重ねていきます。

災害に対するものだけではなく、常日頃から安全に対する意識も育てていきたいと考えています。通園においては勿論のこと、遊んでいる時（プール遊び）にも“危ないこと”を教えます。幼児にとっての安全教育は、生活に関することが多いので、「外では手をつないで歩く」「むやみに物に触らない」「家の中で走り回らない」「お箸を振り回さない」等々、“安全教育＝しつけ”という考え方で、ご家庭でも働きかけていきましょう。

絵本の部屋に、関西大学社会安全学部河田恵昭教授の「にげましょう」という本があります。機会があればご覧になってください。

留学生との交流

平成24年から、関西大学の外国人留学生との交流を始めて、延べ218名（韓国・中国・台湾・香港・タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシア・スリランカ・エジプト・サウジアラビア・スロバキア・タジキスタン・デンマーク・アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド・ドイツ・フランス・ベルギー）の学生が参加してくれています。

留学生を身近に感じることで、世界にはたくさんの国があり、言葉があり、文化があることを知るきっかけになればと思って始めました。留学生は子どもたちにとっても優しく接してくれます。この目線を合わせた交流によって子どもたちには、自分とは異なるもの（容姿・言葉・考え方）にも関心を抱き、好意や敬意をもって関われる柔軟な心を身に付けてほしいと願って続けています。この交流は、年中・年長児は5月から、年少児は10月から、週に1、2回計画していますが、学生の人数や都合によって確定できるものではありませんでした。

そこで、今年度より今までの交流に加えて、土曜日（年中・年長児は6月～2月。年少児は9月～2月。）には必ず来園してもらうことを計画しました。また、これまでの交流は英語圏の留学生が少なかったため、土曜日の交流には、英語圏からの留学生に来園をお願いすることにしました。

手遊びをしたり、ゲームをしたり、絵本を読んでもらったりして過ごしますが、学生には英語だけで過ごしてもらうようにしています。初めての日には、戸惑う様子の子どもたちでしたが、子どもの順応性はたくましく、2回目の時には身振り手振りで遊びに誘い、一緒に過ごす姿がありました。

幼児期には耳から聴く体験が大事だと考えるので、回数を重ねていくうちに、詩の朗読をしてもらうことも考えています。暗記の為の言語ではなく、耳に心地良い美しいリズム・楽しいリズムを通して、子どもを育てる美しい言葉として触れさせたいと思います。

単語やアルファベットを覚えさせる為に始めた交流ではありませんので、子どもが“覚えてきた”“覚えてこない”と一喜一憂せずに、感覚を通して子どもの興味関心の芽が育つ様子を、ゆっくり見守ってあげてほしいと思います。